

診察室以外の様子を知れる 新たなアプローチ

LINE公式アカウントを使えば診療への組み込みもスムーズ

医療法人ミライエ 緑町診療所 稲熊 良仁 先生

近年急速に拡大しているDigital Therapeutics (DTx) 領域の中で、先行して保険適用となり処方が始まっている高血圧の治療用アプリ、CureApp HT 高血圧治療補助アプリ(以下、CureApp HT)。
LINE公式アカウント登録者数を多く持つ「緑町診療所」の稲熊先生に、LINEをどのように活用してCureApp HTを高血圧患者さん*に処方しようとしているのか、導入しようと思ったきっかけ等についてお話を伺いました。

*CureApp HTの使用目的又は効果は、成人の本態性高血圧症の治療補助



お医者さんと一緒に使えるアプリであれば、
アドヒアランスの向上が見込めると思った



今後のプライマリケアを考えた際に、生活習慣病予備軍の患者さんをいかに当院でケアできるかが大事だと考えていました。

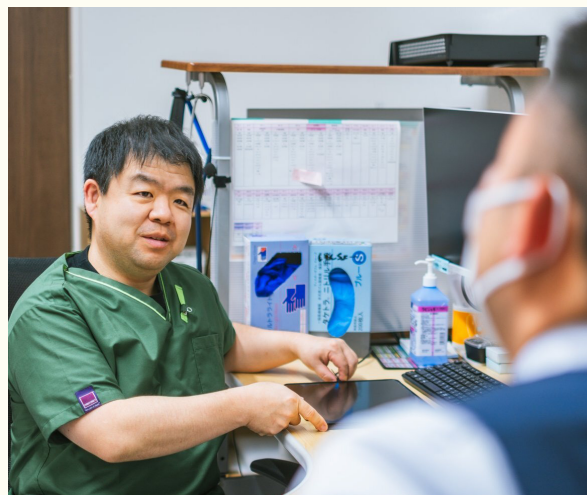
健診で「あなたは生活習慣病予備軍です」と指摘しただけでは患者さんに定期通院してもらうことはとても難しいです。また、薬を1剤だけ処方しているような患者さんも、簡単な診察だけで終わってしまい、離脱するケースも経験してきました。

高血圧治療ガイドラインの治療管理計画には、第一選択として生活習慣の修正と書かれているので、患者さんに生活習慣について指導をしますが、私たち医師には診察室以外の患者さんの様子を知る術がないため、指導の効果を実感できずにいます。

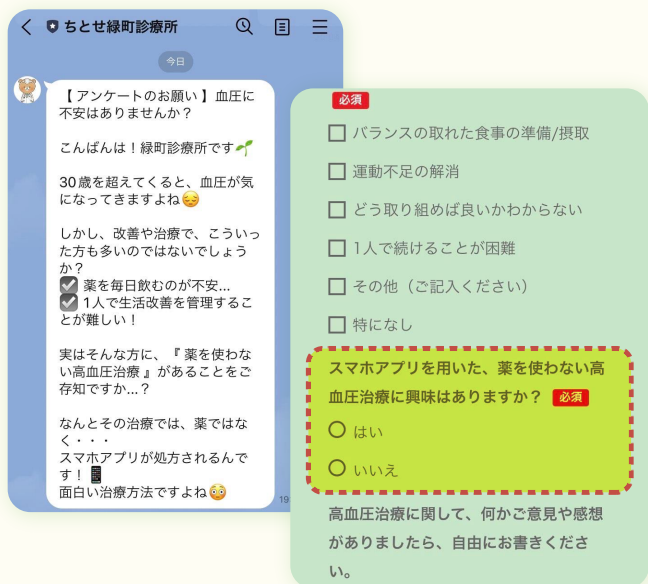
そこを埋めるアプローチとしてCureApp HTが役に立つと直感的に思い、導入を決めました。

実際にデモアプリを試してみても、これなら血圧手帳を持ち歩くより簡単だし、エンタメ性もあるので、スマホを使える人なら誰でもできそうというイメージを持ちました。

“お医者さんと一緒に使えるアプリ、CureApp HT”であればアドヒアランスの向上も見込めると思いました。



LINE公式アカウントを使えば効率よく患者さんに認知してもらい、処方までスムーズに実施できる



当院はLINE公式アカウントの登録者数が15,000人以上（2023年12月時点）います。このようなオウンドメディアを使えば、CureApp HTを効率的に導入できると考えています。

まず、LINEで高血圧治療についてのアンケートを配信し、その中に「スマホアプリを用いた薬を使わない高血圧治療に興味はありますか?」という設問をもうけました。この時点で、患者さんのITリテラシーやCureApp HTに興味がある患者さんを把握することができます。

次に、CureApp HTに興味がある患者さんに対してCureAppが提供している説明動画を配信し、治療法や費用などについても納得してもらった上で診察に来てもらい処方します。

診察時には紙資料をお渡しして、簡単に説明するだけなので効率的です。

薬を飲みたがらない患者さんにメリットが大きいのではないかと考えている

CureApp HTは、スマホアプリを使える高血圧患者さんなら処方可能と考えています。特に、通院が面倒だと思っていたり、薬を飲みたがらない患者さんには、当面の間薬を飲まなくて済む可能性があることを伝えることで生活習慣修正のモチベーションを上げられることを期待しています。



お話をうかがったのは



稲熊 良仁 (いなくま・よしひと) 先生

緑町診療所 院長

2001年3月 国立山形大学医学部医学科卒業、2004年4月 厚岸町立厚岸病院内科部長、2006年4月 市立函館病院救命救急センター医長、2008年4月 江別市立病院総合内科部長、2009年4月 自治医科大学 地域医療学センター臨床助教、2011年4月 札幌医科大学 地域医療総合医学講座助教、2013年4月 厚岸町立厚岸病院内科部長、2018年4月 倶知安厚生病院総合診療科部長、2020年4月 緑町診療所、2022年10月 医療法人ミライエ設立

総合内科専門医/指導医

プライマリ・ケア連合学会認定医/指導医

Diploma of Tropical medicine & Hygiene / CBRNEテロ・災害医療対策担当者1級

日本医師会認定産業医 / 日本医師会認定スポーツ医

JATEC/ACLS/PTLS/ICLS/JPTCE修了 がん緩和ケア医講習会終了